

マイタビ ズ!

著 黒瀧糸由
画 師走ほりお
原作 びたふえち!



ふちばら文庫

目次

プロローグ	ロリ巨乳は突然に	5
第一章	やってきた女神様	11
第二章	セキニンってね?	59
第三章	ふかぁ〜いつながら	107
第四章	キミがダイスキ	154
第五章	いつか二人で……	204
エピローグ	理想の日々	261



ずっと……ずっと……
—シユ=スケのお嫁さんに
なりたがったから—



○エレの日記

初めて、シユースケと……セックス……しちゃった。

すごく痛かったけど。すごく幸せ。すごく……すごく……。幸せ。

子供の頃から、シユースケのお嫁さんになりたいと思っていたけど。今日、本当の本当にシユースケが、お嫁さんしてくれた。

シユースケのパーパのお話を聞いたり、写真を見せてもらって、シユースケはとっても素敵になってると思ったけど。私の考えよりも、ずっと、ずーっと素敵。

パーパとマーマに電話したら、すごく叱られたけど、あと何カ月も待つなんて、無理だったんだもん。すごく……会いたかった。

それに、シユースケはカッコイイから、遅れたら誰かにとられちゃったかもしれない。

この家には、誰もあがったことないってシユースケ言ってたけど、ホントかな？

シユースケは、私は特別、って言ってくれた。

ちよっと、アソコにまだ、シユースケが入ってる感じがするし、ちよっと痛い。

でも、すごく幸せな痛み……。大好き。シユースケ……。大好き……。

第三章

ふかあ〜いつながら

横たわるエレの背後から抱きつき、足を大きく広げさせて、挿入した。

「ふああ……。うう……。入ってきたあ……。んっ……。くう……」

初めてエレと一つになった日から、毎日……。というか、毎時間ごとに俺たちはセックスを繰り返していた。

エレのオマンコは相変わらずキツキツで、挿入には苦労する。しかし、エレも力の抜き方を覚えてきて、一度入ってしまうとかなり自由に動かすことができた。

「はうん……。あ……。あ……。大きいの入ってる……。奥まで……。んっ……。んっ……」

エレは快感に声をあげ、唇を震わせた。

「シユースケえ……。オマンコ……。いつもと……。違うところ……。気持ちいい……。よお」

「あ、ああ……。たぶん、G スポットか、その辺に……。当たって……」

二人とも横になって、背後から挿入する後背側位。この体位だと、膣のその部分にあたる……。らしい。

「ふー……。んっ……。い、いっぱい……。気持ちいいところ……。あるね」



エレの首筋にキスをし、乳房を揉みしだく。エレは存分に快感の声をあげ続けた。
 「ふああ！ あん……あん……いっ……いい……よお……チンポ……暴れてる……」
 「エレ……くう……。乳首……。も……。つまんでやろうな……」
 「だ、だめえ……。もっと気持ちよく……。なっちゃ……。う」

エレが、手で隠そうとしたので、素早く指をエレの乳首に移動し、チョンと突く。
 「きやうう！ だ、だめえ……」
 固くなっている乳首をつまみ、少し引つ張った。エレが小さくのけ反り、また大きな声をあげた。

「ひやうう……らめ……らめえ……乳首……引つ張つちゃあ……あ……ああ……」
 「駄目じゃないだろ？ 気持ちいいんだろ？」
 そつと耳元で囁くと、エレは小さく頷いた。

「うん……うん……気持ちいい……気持ち……いーのお……乳首い……いい……」
 エレの感度が高まるにつれ、膣圧も高まり、ギョッギョッと俺の肉棒を閉めてくる。それでも無理矢理動かすので、亀頭に与えられる快感は尋常じゃない。

「う……くう……はあ……はあ……キツイ……くう……」
 「シユースケえ……私の……オマンコ……気持ち……いい？ ねえ？」

「ああ……すごく……いいよ……あ……くう……もつと奥まで突いてやるぞ！」
 「んああ！ あ……ああ……奥に……当たってるう……あ……ああ……シユースケえ……。いつちやうよお……。また……いつちやう……うう……」

「あ……ああ……。いこうな……一緒に……んっ……くう……」
 背後から抱きしめ、腰を激しく揺さぶった。ずびゆずびゆと卑猥な音が響き、エレの淫

裂からは愛液が噴き出している。

「はあ……はあ……エレ……いっぱい……汁……出てるぞ……」

「うん……出ちゃうの……だつて……気持ち……いいから……あ……ああ……」

ぴゅつぴゅつと、エレの汁がシーツの上に噴き出し、膣内の温度がさらに高まった。

「ああ……エレ……もう駄目だ……俺も……出すぞ……出すぞ……」

「うん。私……もお……い……っちやう……か……からあ……んっ！」

エレの動作が一瞬止まった。次の瞬間。

「い、い、イクウウウ！ んっ！ んっ！ んっ！」

「くー……うっ！ うっ！ うっ！ ううっ！」

エレの絶頂と一緒に、俺の肉棒は爆発した。叩きつけるように精液が放出され、エレの子宮に飛び込んでいく。

「あ……ああ……ア……アア……。出てる……いっぱい……あ……ああ……」

エレの身体が小刻みに震え、何度も、何度も達し続けた。

俺もまた射精を繰り返し、エレの子宮が受け止めきれなかった白濁液が、俺とエレの繋がっている部分から溢れ出してきた。

「また……いっぱい……中に出たね……」

「ああ……すごい量だな」

ぶちばら文庫

ごっくん!マイダーリン

2012年 2月29日 初版第1刷 発行

■著 者 黒瀧糸由
■イラスト 師走ほりお
■原 作 びたふえち!

発行人：久保田裕
発行元：株式会社パラダイム
〒166-0011
東京都杉並区梅里2-40-19
ワールドビル202
TEL 03-5306-6921

印刷所：中央精版印刷株式会社

本書の内容を無断で複製・複写・放送・データ配信などを行うことは、
かたくお断りいたします。

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

©SHIYU KUROTAKI © 2011 びたふえち!

Printed in Japan 2012

PPQ44



ぶちばら文庫33
夜空野ねこ 著
ぼたん味噌 画
アトリエかぐや 原作
定価 670円(税込)

才斗のクラスに女の子が転校してきた。その女の子——ユリーシャは、美しい顔立ちと穏やかな性格から、瞬く間に学園の人気者に。しかし、ある日、才斗は彼女が狼女であるという秘密を知ってしまう。しかも、彼女は発情期のまったただ中で!?



好評発売中

気になるあのコはオオカミ娘っ!?

